



ニジカジカの卵塊

大きな卵塊では1㎡の範囲にも及ぶ場所もあります

(写真・文 水中カメラマン 佐藤長明さん)

金色に輝く壁

水中は、ブルーミングと呼ばれる春濁りの季節真っただ中です。

見上げる水面は緑色に鈍く輝き、太陽光も届きにくく、水深10メートルを過ぎるころには、夜のような暗さとなります。しかし、この濁りは恵みの濁りでもあるのです。

水中で立ち止まり、中層に目を凝らすと、何やら小さな生き物たちが跳ねるように動いているのがわかります。これは、大量の動物プランクトンです。川から流れ出た栄養源は、植物プランクトンの餌となり、それを餌とする動物プランクトンが大量に発生し、水を濁らせているのです。

さて、写真に写る金色に輝く壁面の正体は、「ニジカジカ」という魚の卵です。雄のもとには、多くの雌やってきて、大切な卵を託していきます。この金色の卵一粒一粒が生まれ来る命なのです。彼らが生まれるこの季節は、敵から姿をくらませることができない藻場の海草が繁茂し、餌となるプランクトンが豊富に供給される、命を育むには無くてはならない季節でもあります。

編集後記

▶ 今月のテーマは「伝承」です。先日、ある飲み屋さんで初老の男性から「おめえ、ブドウのごど分がつか？」と聞かれました。もちろんブドウは分かりますが「ブドウのこと」となると何と答えればいいのか分かりませんし、このでの質問は、ほろ酔いを通り越した方がする質問。このまま真面目に答えると、朝までブドウ先生の講義を聞くはめになると思い、頭をかきかきしながら適当に答えました。すると、「そう！それ正解！」と喜んでいらっしゃいます。やっぱりね…、ところが、よく話を聞いてみると、この方が聞いたかったのはブドウのことではなく「ブノゴド」なのだそうです。そして、当地域では「後頭部」のことをブノゴドというらしいのです。分かりませんよね～、ブノゴドなんて。…と思った瞬間「はっ」と思いました。もしや、ブノゴドという言葉は、今後この世から消えてしまうのではないか！民俗芸能しかり、髪の毛しかり、消えて無くなるのは寂しいことだ！伝承せねば！今度から床屋に行ったときはこう言おう。「すみません。ブノゴドは少し長めをお願いします」
担当 加藤

わが家のアイドル



かいじ
山 佳士くん

(◎町向)

平成21年7月9日生まれ

パパ 秀則さん

ママ 一美さん

おうちの方より一言

お姉ちゃんのことごとくても大好きな佳士くん。ハイハイも上手になり食欲も旺盛！これからの成長が楽しみです。